

## スラブ・ユーラシア研究センターのウルフ教授が フンボルト賞を北海道大学で初めて受賞

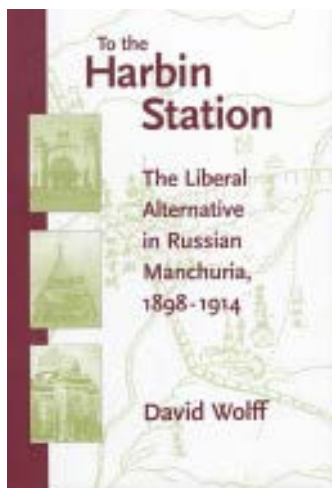
### 【賞の概要】

フンボルト賞は、ドイツ政府が全額出資するアレクサンダー・フォン・フンボルト財団が創設したドイツで最も栄誉ある学術賞です。同賞は、基礎的な発見、新しい理論あるいは発見が、当該研究領域を超えて永続的な影響を及ぼし、さらに、将来も優れた研究を生み続けることが期待される研究者に与えられます。

同賞はこれまで日本人では、小柴昌俊、村山斉、小林俊行、野水克己ら自然科学の研究者が受賞しています。本学の教員としては、ウルフ教授が初めての受賞となります。

### 【受賞内容】

研究課題 20世紀ロシアのアジアにおける活動の歴史  
受賞者 ウルフ デビッド（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授）  
授賞式 2023年6月 ベルリンにて開催（ドイツ大統領主催の晩餐会）



（左）ウルフ教授の著作『ハルビン駅へ』。（右）ウルフ教授

## 【受賞理由】

受賞はウルフ教授の30年間にわたる、20世紀ロシアのアジアにおける活動の歴史についての研究に対するものです。同教授のハルビンに関する著作（*To the Harbin Station*、Stanford、1999/ 邦訳『ハルビン駅へ』講談社、2014年）は、新しい帝国論の基礎的なテキストであると見なされており、従来は機密文書とされていた文書館史料による覇権主義の慣行についての、より広範で、きめの細かい分析に基づくものでした。同教授が編集あるいは共同編集された書籍や雑誌の特集号では、30人以上の日本人歴史家によるエッセイや論考を含む、多くの北東アジア研究の成果が英語圏の読者に紹介されました。ウルフ教授は、4つの大きなプロジェクトを進めている最中で、これまでの研究よりもさらに影響力のある研究成果を出す可能性があると考えられています。

この10年間、ウルフ教授は、本学とルートヴィヒ・マクシミリアン大学（ミュンヘン）の間の学術協定に基づいて、アジアにおけるロシア研究のために新たに設けられた教授ポストと緊密に協力してきました。これは、ロシア東方研究のためのヨーロッパで唯一の学術ポストであり、現在、ロシア医学史の著名な専門家であるアンドレアス・レンナー氏がこの教授になっています。ウルフ教授は、同大学で講義を行い、同大学にスラブ・ユーラシア研究センターの2人のポストを派遣したことに加えて、同大学の高等研究所を訪問し、北太平洋のイニシアティブというテーマでモスクワのドイツ歴史研究所との間で研究協力をし、ハイデルベルク大学の北太平洋に関する叢書の編集顧問を務めました。このようなドイツとの密接な研究協力も高く評価されました。

## 【受賞者のコメント】

2006年から本学のスラブ・ユーラシア研究センターで働くことができ、幸運でした。同センターの東西両方のロシア関係への幅広いアプローチにより、ロシアと中国の様々な地域に出張し、研究することが可能になり、ヨーロッパでも成果を発表することができました。2014年以降、プーチン大統領は決定的に中国に目を向けるようになり、アジアの視点の必要性がヨーロッパの学者や実務家に明らかになりました。

今回のフンボルト賞の受賞は、このユーラシアのダイナミズムを強く意識したものと言えますが、そのおかげで私は同センターの同僚とともにこの動きをより深く探求することになりました。この受賞によって、同センターと北大のインパクトがミュンヘンからドイツの他の大学へ、そして、ドイツからヨーロッパの他の研究センターに広がっていくことを期待しています。

### お問い合わせ先

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター センター長 野町素己（のまちもとぎ）

T E L 011-706-3629 F A X 011-706-4952 メール [mnomachi@slav.hokudai.ac.jp](mailto:mnomachi@slav.hokudai.ac.jp)

U R L <https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/>

### 配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール [jp-press@general.hokudai.ac.jp](mailto:jp-press@general.hokudai.ac.jp)